

ホスピス型住宅における訪問看護と訪問診療の連携に関する実態調査結果（速報）

昨今、訪問看護ステーションが併設された高齢者住宅、いわゆる「ホスピス型住宅」が急増している。ホスピス型住宅は終末期がんや神経難病など医療依存度の高い患者に24時間の訪問看護が提供できるとされる一方、不正・過剰な訪問看護が行われているとする報道もある。

そこで、日本在宅医療連合学会では、当学会に所属する医師会員に対して、インターネットを用いた実態調査を実施した。

今回アンケート結果について公表する。

調査目的

「ホスピス型住宅」における訪問看護と訪問診療の連携実態の把握

調査期間

2025年10月22日～11月17日

調査対象

当学会所属医師会員 3,399名

回答数

493名（回答率 14.5%）

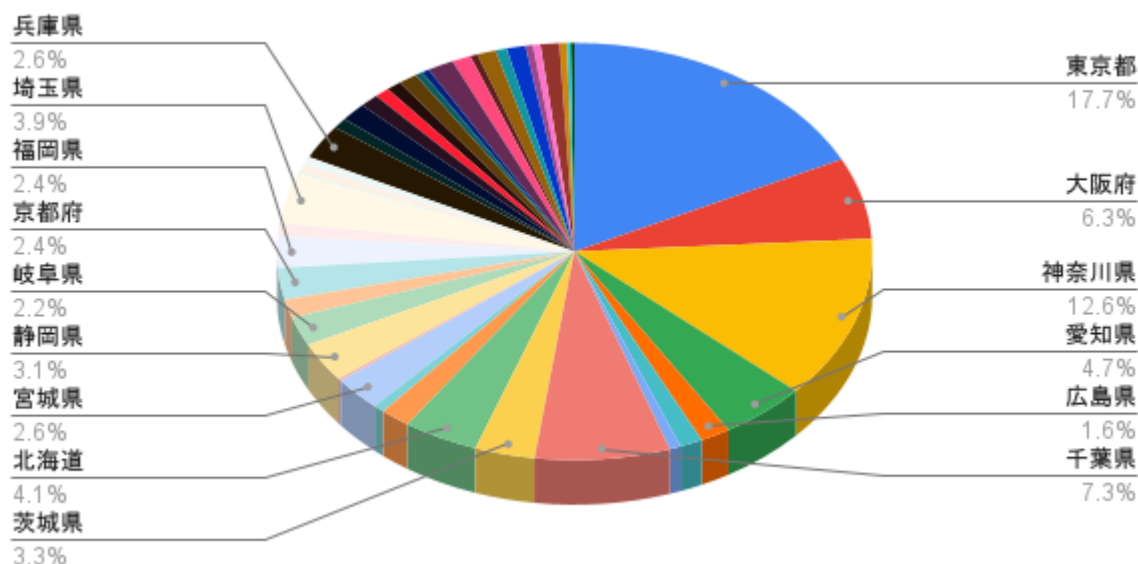
調査方法

インターネットを用いたWebアンケート調査

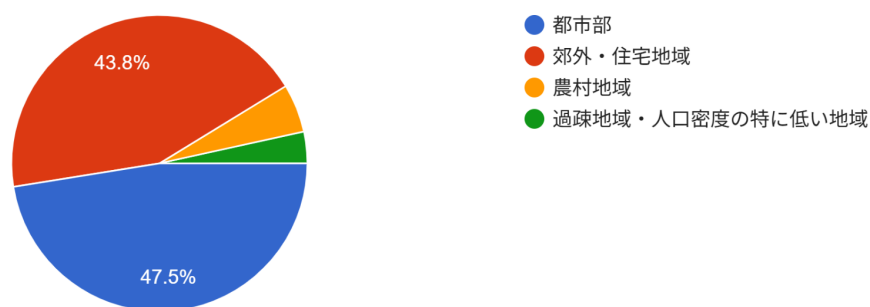
ホスピス型住宅における訪問看護と訪問診療の連携に関する実態調査 アンケート結果（速報）

0. 診療地域について

都市部と郊外が概ね半々であった。とりわけ、東京・神奈川・千葉・埼玉の一都三県で41.5%を占める。その他、大阪府、愛知県など人口の多い地域が多い。



もっとも近いものを1つ選んでください
493 件の回答

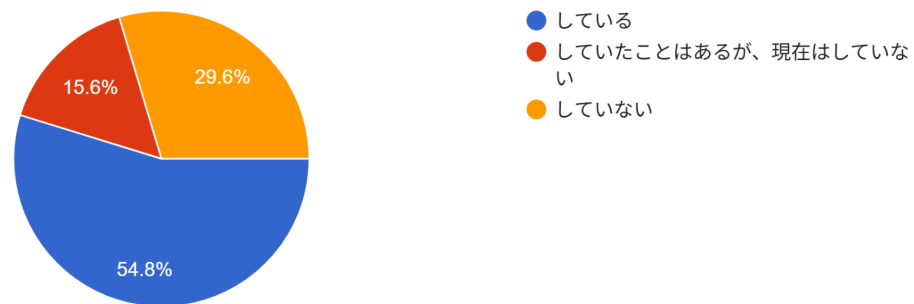


1. ホスピス型住宅への訪問診療について

70.4%がホスピス型住宅での訪問診療の経験があり、54.8%が現在もホスピス型住宅での訪問診療を行っている。

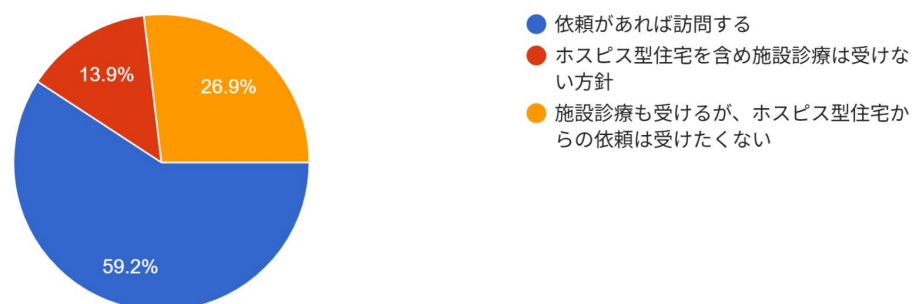
1. ホスピス型住宅（訪問看護ステーション併設高齢者住宅）で訪問診療をしていますか？

493 件の回答



「していたことはあるが、現在はしていない」「していない」と回答した医師のうち、40.8%がホスピス型住宅での訪問診療は受けない方針と回答している。

223 件の回答

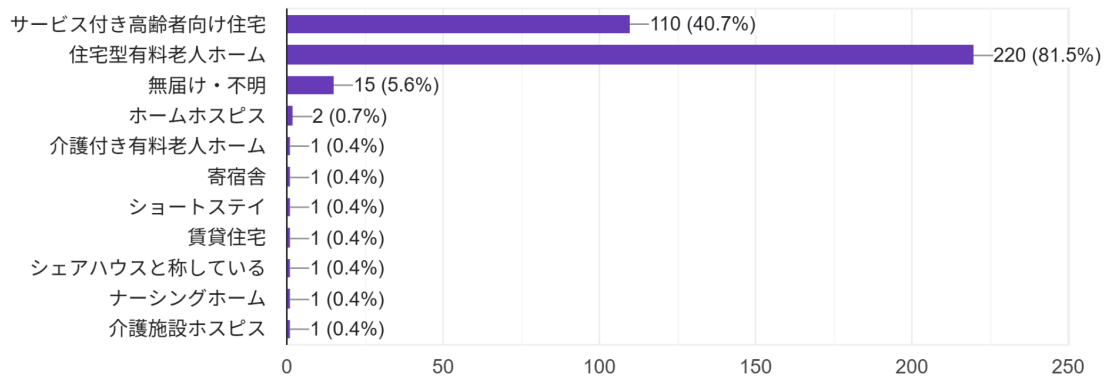


2. 高齢者住宅の施設類型

住宅型有料老人ホームが最も多く、サービス付き高齢者向け住宅も多い。
無届け・不明が15件、「無届施設」「寄宿舍」や「シェアハウス」などの特殊な形態も存在する。

2. 上記は高齢者住宅としては何に該当しますか？

270 件の回答

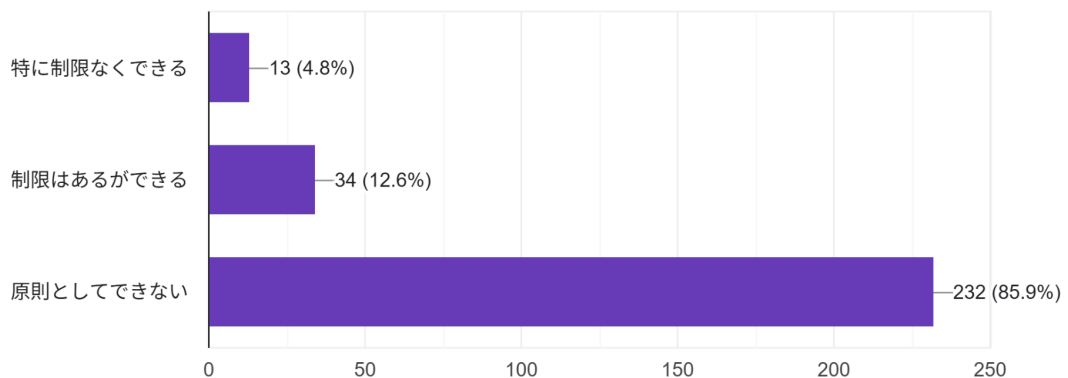


3. 外部訪問看護の利用について

279の回答者のうち、85.9%が原則として外部の訪問看護ステーションの利用ができないと回答、制限なく外部訪問看護を利用できるという回答はわずか4.7%（13回答）であり、大部分は併設された訪問看護ステーション以外を利用できない状況にある。

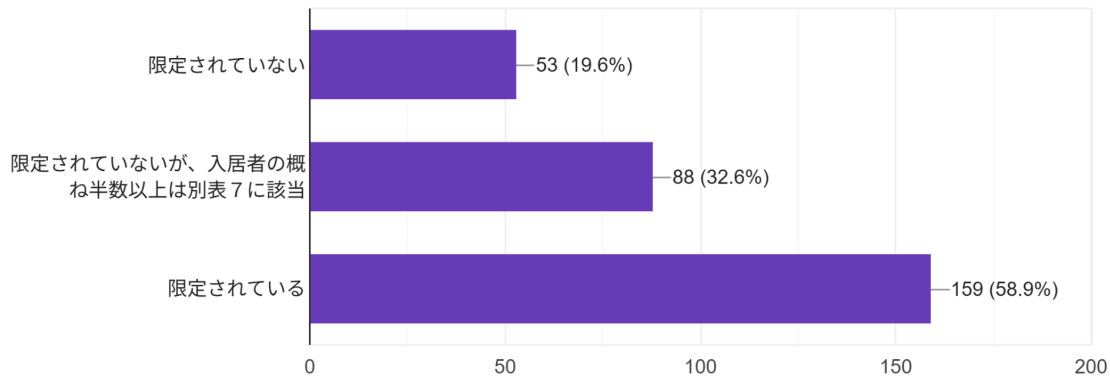
3. その高齢者住宅では、患者・家族の選択また...以外の訪問看護を利用することができますか？

270 件の回答



また回答者の58.9%が、入居者を別表7（訪問看護に健康保険が適用される対象疾患）に限定していると回答し、限定されていないという回答は19.6%と少数であった。

●入居者が末期がんや難病など別表7（訪問看護に...が適用される対象疾患）に限定されていますか？
270 件の回答



4. ホスピス型住宅のケアの質について

訪問診療しているホスピス型住宅の中で、主治医が「もっとも評価の高い施設」と考える施設と「もっとも評価の低い施設」と考える施設について、ケアの質について項目別に5段階のリッカートスケールを用いて評価した。主治医が単一施設の関わりしかない場合には「もっとも評価の高い施設」として回答した。

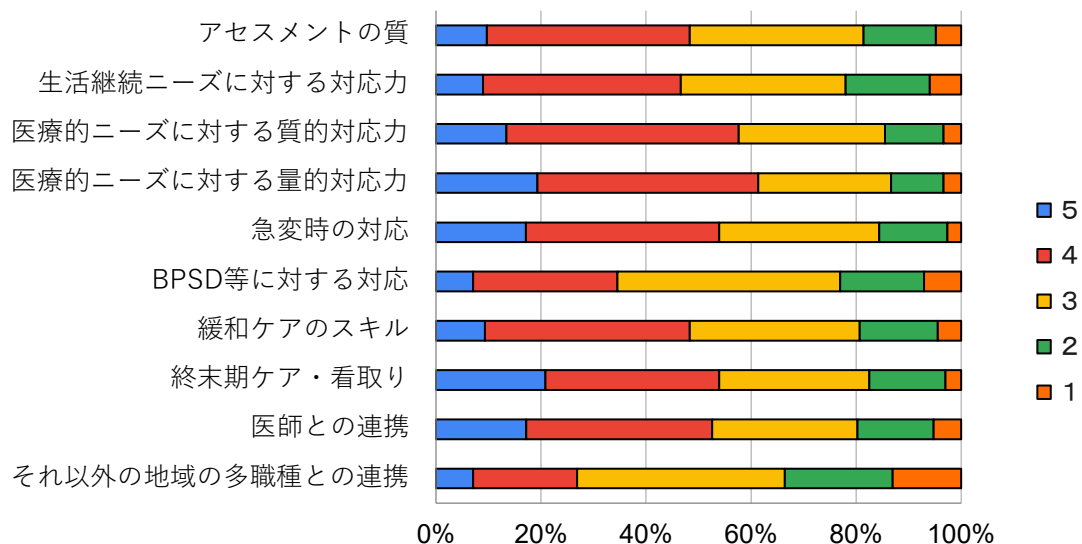
全体的に量的ニーズに対する対応力については一定の評価があるものの、主治医が「もっとも評価の高い施設」と考える施設においても、多職種連携、BPSD等に対する対応力、生活継続ニーズに対する対応力、アセスメントの質、緩和ケアのスキルにおいて、過半数の医師が「標準」以下の評価を行っている。

主治医が「もっとも評価の低い施設」と考える施設においては、量的ニーズへの対応力、急変時の対応を除き、緩和ケアのスキルや終末期ケア・看取りを含むほぼ在宅ケアのすべての項目で、半数以上の医師が「ケアの質が低い」という評価を行っている。

ケアの質の高い施設も存在する一方、「ホスピス型住宅」「ホスピスホーム」という一般的な呼称に見合わない施設も数多く存在することが明らかになった。

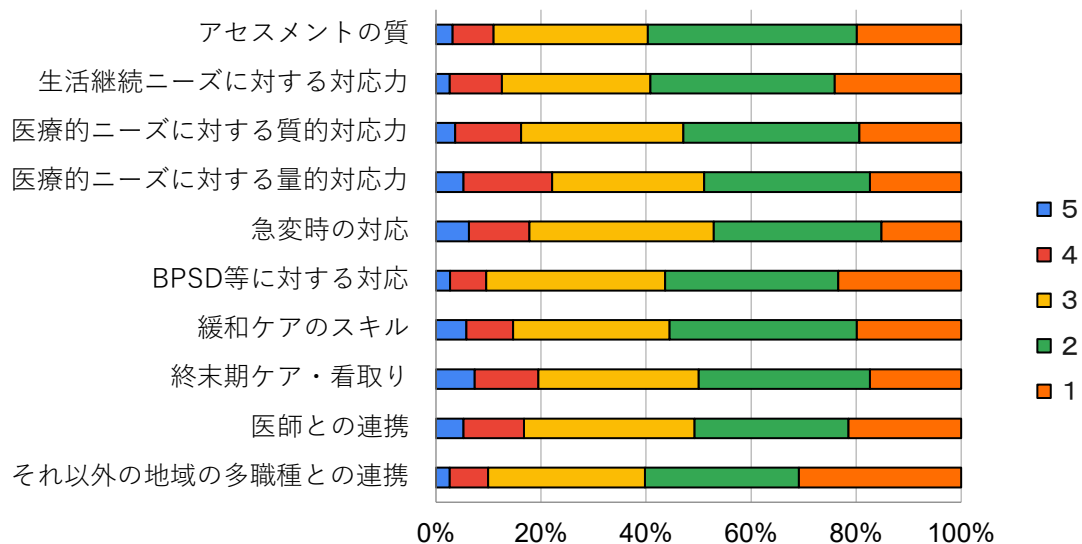
【もっとも評価の高い施設】

もっとも評価の【高い】施設



【もっとも評価の低い施設】

もっとも評価の【低い】施設

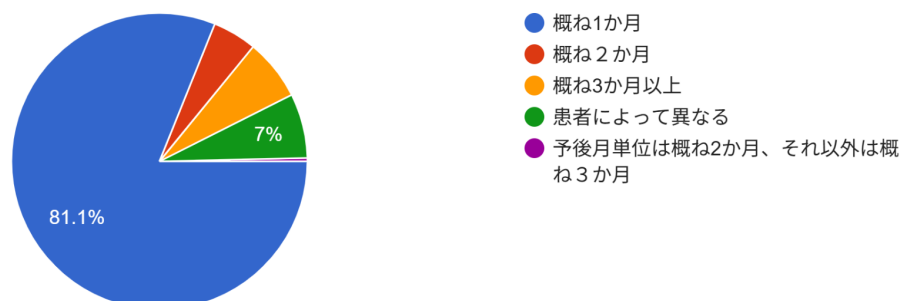


5. 訪問看護指示書について

81.1%の医師は概ね毎月訪問看護指示書を発行している。

5. 訪問看護指示書の指示期間（指示書の発行頻度）はどれくらいですか？

270 件の回答

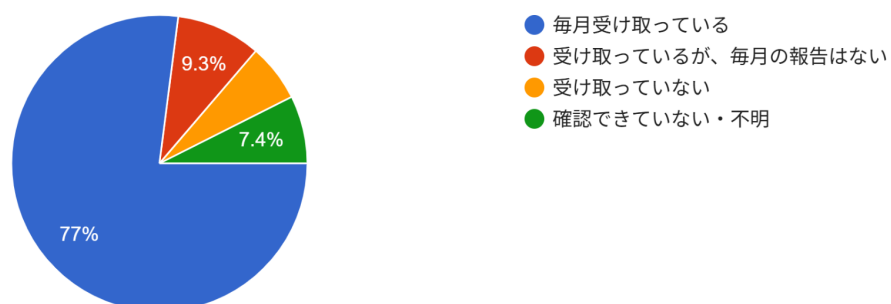


6. 訪問看護報告書について

77.0%の医師は毎月訪問看護報告書を受け取っている。受け取っていない、確認できていないケースが13.7%存在する。

6. 訪問看護報告書を受け取っていますか？

270 件の回答

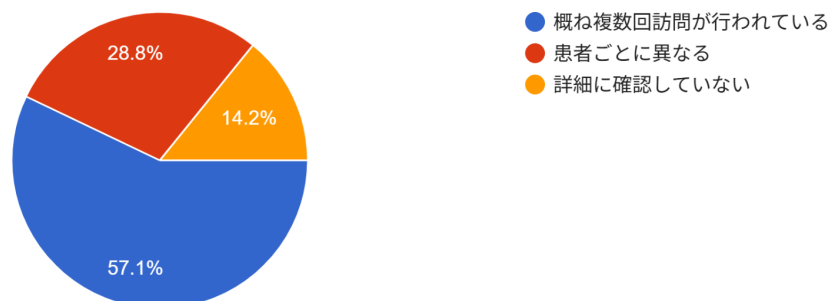


57.1%の医師が、概ね複数回訪問が行われていると回答している。

個別の看護計画が提供されているという回答は28.8%、訪問頻度を確認していないという回答が14.2%であった。

●訪問看護の1日の訪問回数について

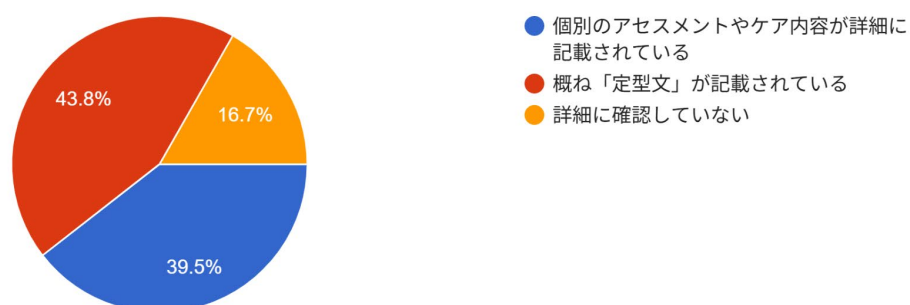
233件の回答



訪問看護報告書の内容は「概ね定型文」が43.8%で、個別のアセスメントやケアの内容が記載されているという回答は39.5%であった。

●アセスメントやケアの内容について

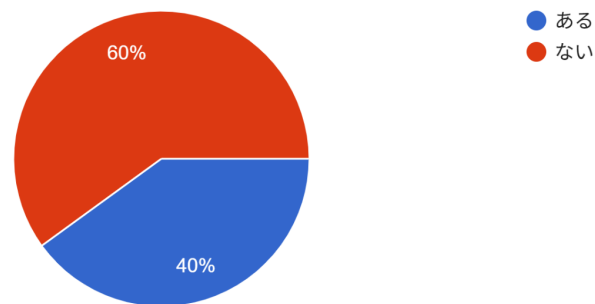
233件の回答



7. 訪問看護指示書への虚偽病名の記載のリクエスト

訪問看護指示書に記載する病名に「手心」を加えるようにリクエストされた経験をもつ医師は、40%（108人）に上った。

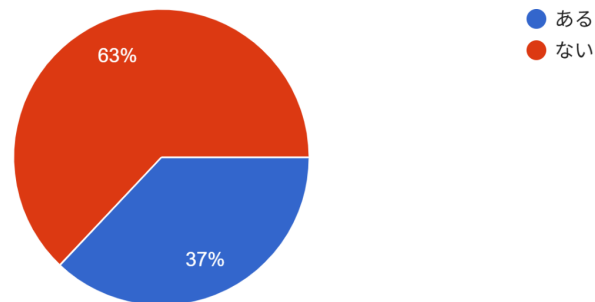
7. 訪問看護指示書に記載する病名に「手心」を加えるようリクエストされたことはありますか？
270 件の回答



8. 過剰な訪問頻度や複数人訪問の記載のリクエスト

訪問看護指示書に複数回の訪問について記載するようにリクエストされた医師は、37.0%（100人）に上った。

8. 訪問看護指示書の記載に当たり「1日複数回...載するようリクエストされたことはありますか？
270 件の回答

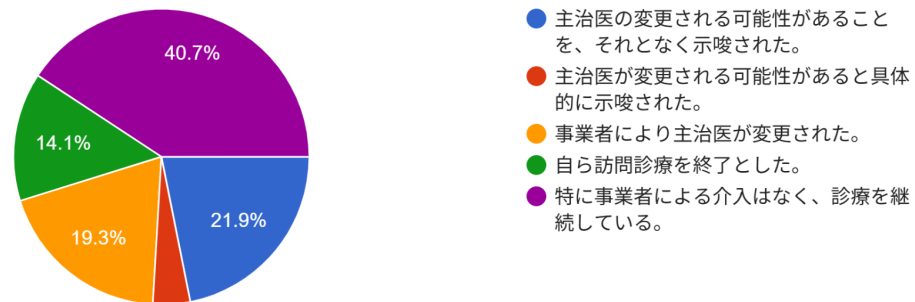


9. リクエストに応えないことに対する主治医変更の圧力

59.3%（160人）の医師が主治医変更の圧力を経験し、うち19.3%は実際に主治医変更が行われ、14.1%は不適切なリクエストを受けて自ら訪問診療を終了している。実際に主治医変更を経験した医師はあわせて33.4%に達している。

リクエストに応えないことに対する介入がなかったという回答は40.7%であった。

9. 上記質問7および8を含む、施設からのリク...問診療の契約が終了となったことがありますか？
270 件の回答

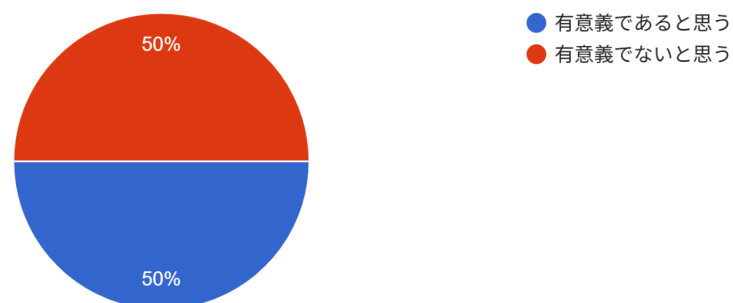


10. 訪問看護指示書による訪問頻度の制限について

現在、厚労省等で検討されている「訪問看護指示書に記載があった場合のみ複数回訪問を認める」という制限に対して、50%の医師は「有意義でない」と回答している。

その理由としては、訪問頻度は訪問看護師が患者の状態に応じて適宜判断すべきものであり、医師が具体的な回数を適切に指定できない・指定すべきでないとする意見が多い。また、事業者からのリクエストを拒絶しにくいと29.6%の医師が回答している。

10. ホスピス型住宅における過剰な訪問看護を抑...論されています。これに対してどう考えますか？
270 件の回答



その理由について該当するものを選択してください（複数回答可）。

135 件の回答

